

嬉泉の新聞

嬉泉の新聞／第5号／1986年（昭和61年）9月10日発行／発行所＝社会福祉法人・嬉泉〔東京都世田谷区船橋1-30-9（〒156）TEL 03-426-2323・千葉県君津郡袖ヶ浦町下新田1680（〒299-02）TEL 0438-62-9121〕 発行人＝石井哲夫／編集人＝明峯邦夫

「三尺の童子を拝す」

平井 信義

「嬉泉の新聞」第4号において、石井哲夫さんが「見えざる敵との戦い」と題する文章を寄せられていたが、これを読んだ私は、それをリコピーしてわれわれの相談室の職員に手渡した。「見えざる敵」としての自分の中に巣を作っている自分本位な心を点検してはしなかったからである。

それにつけて日頃から思っていることは、「先生」と呼ばれることのこわさである。子どもたちに「先生」と呼ばせ、職員同士も「先生」と呼び合っているのは、わが国のみである。欧米では、子どもは教師をMr. Mrs. Miss、——つまり「さん」で呼んでいる。私の孫はエデンバラ（イギリス）の小学校に1年間通っていたが、校長と親しくなり、電話をかけてよこしたときに、さかんに「ベーカーさん」連発していた。私の大学の院生がアメリカの高校に通っていたとき、指導教師が廊下を歩いていたので、呼び止めようとして「teacher」を連発したが、振向かなかったという。そして、友人から「さん」で呼んでよいことを教えられた。

なぜ、わが国では子どもに「先生」と呼ばしているのだろうか。それは、教師の権力を維持したいからである。もし子どもが「さん」で呼ぶことがあれば、平手打ちに会うかも知れない。子どもの母親が「さん」で呼んでも、自分を馬鹿にしていると内心憤慨するであろう。教師同士が「先生」と呼び合っているのも、同じ理由によるものである。校長が新人の教師に対して「〇〇先生」と呼んでいるのも、子どもたちに対する一種のみせし

めと言いたくなる。欧米では親しくなった職員間では first name で呼び、私の場合はノブヨンでは長すぎるので Nobby である。レーガン大統領と中曽根首相が「ロン」と「ヤス」で呼び合っているのもその現れである。

わが国では、「先生」と呼ばれることで権力を維持し、「オレの言うことはそのままきけ」といった傲慢極まりない意識を育てているのが教育界の風潮であり、それが子どもという弱い存在を対象にした各種の施設にも及んでいる。「オレの言うことをきけ」といった意識は、「オレの言うことは間違いがない」という極めて傲慢な意識に通じ、それが連帯してたくさんの規則を作っては違反する子どもを罰するという悲劇を生み出している。

私の大学からも、毎年教職についたり児童福祉施設に勤め、「先生」と呼ばれる立場におかれる学生が多いが、私は「いつも自分の未熟な人格を反省するために、たくさんのことを子どもたちから教わりなさい」と提言している。禅の言葉の「三尺の童子を拝す」を私は座右の銘にしているが、「子から学ぶ」と異句同音である。

「先生」と呼ばれる立場の者に、医者がある。医学部の伝統には、「寄らしむべし、知らしむ可からず」の意識があり、最も傲慢になりやすい。石井さんは「見えざる敵」の中で、医師は人の生命を預っていることを力説しているが、その意識は少なく、「オレがなおしてやっている」という傲慢さがある。私は、若い頃、医者として「先生」と呼ばれ、

（3ページ下段に続く）

その昔、世田谷にある子どもの生活研究所で、自閉症児の通所指導をはじめた頃、私達の治療の現場を東京都立梅ヶ丘病院の院長詫摩先生が見学に来られたことがあった。詫摩先生は、私の古い友人の都立大学詫摩武俊教授の叔父さんで、何かと心安さを感じお話をしていた。オーストリアのウィーンで開かれた国際児童精神医学会議と一緒に出席したことも思い出されてくる。

「子どもに打ちこんで可愛がっておられることは素晴らしい。うちも頑張ってるやうだが、何分うちは宿屋で大変なんだよ。」たしか第一種自閉症児施設を引受けられておられた梅ヶ丘病院長としての御苦労も大変だったであろう。

「毎日夜昼なくこの子たちとつきあうのは、とても大変なことなのだろう」と思っていた。

親でも上手に育てられないこの子たちを、専門家という名を汚さぬよう上手に育てなければならぬ、この仕事の厳しさを、その後間もなく体験しようとは思っていなかった。

しかし昭和五十二年に袖ヶ浦のびる学園が開設され、第二種自閉症児施設として認可されることに

なり、私としても、当時子どもの生活研究所を支えていた山根美江子さんや喜多克彦君、それにやや遅れて金沢信一、裕子夫妻、山崎順子さんなどという実力者を大挙して派遣し、子どもの生活研究所で長年培って来た「受容」の精神をそのまま移植させることを考えたのであった。

詫摩先生は、その後松沢病院に転じられたが、梅ヶ丘病院は副院長だった藤原先生が後任の院長をされることになった。梅ヶ丘病院

宿屋としての施設処遇

石井哲夫

と私たちとは、その後連絡するところが無くなっていくが、きっと昔の友人大庭千鶴子さんや、研究所にいた若林さんは、今でも頑張っておられることと思う。

宿屋ならぬ収容施設の経営は、生活条件の整備に追われる。実際に運営の責任を負っている主任会には、必ずと言ってよいほど、修繕と、物品購入の話が出てくる。

自分で自分の生活条件を整えることの出来ない子どもたちを抱えて職員は人一倍生活の知恵を働ら

せ、生活者としての実践に励まなければならぬ。何しろ宿屋さんは、全てサービスの向上につとめる職業なのである。

施設処遇は、掃除、洗濯、食事をはじめ、生活環境を常に快適にすることを基本としている。施設職員には、全てのこのような雑用が本業として位置づけられている。一応は、炊事、洗濯、掃除等の環境の改善、整備を係りとする者もいるが、保母、指導員、看護婦といえども、その本来業務としての

子どもの直接処遇のみに限定しておくわけにはいかない。生活者として、共に生活をする場の仕末を当然マメに行ってくれなければ生活はなりたたないものである。

施設という生活の場において子どもを受容するということは、ただ直接的なかわりてくふう、努力すればよいというものではない。精神的に安定し、快適に過せるような生活条件を作ることからはじめなければならず、いやむしろそちらの方にかなりのエネルギーを

さかなければならぬのである。

袖ヶ浦でも、最初のうち「子研で器用に子どもを遊ばせていた」とは忘れて、十分な世話と、徹底した掃除をするよう心がけよ。」と言ったことが少しの間はきいていたようであるが、どうしてもゆるみがちになってしまいうようである。この点に関する組織的な施設処遇方法を是非とも実践的にまとめてみたいと思っているのである。

私は体力の続く限り、職員と合宿研修をさかんに行いたいと希っている。このことは、幼ない頃から、自らを戒めて来た生活の中の怠惰さを銘記する上で大切なことと思うからである。職員は本当にわかってくれているだろうか。いつも問いかけていたいのである。

第22回嬉泉バザーのおしらせ

- 日時 10月26日(日)
午前10時～3時
- 会場 子どもの生活研究所
(小田急線千歳船橋駅下車5分)

「私の願い」 田中雅也

この袖ヶ浦のひかりの学園とのびろ学園は、千葉駅と鉄道の駅と電車の駅よりはなれすぎて、いるからきらいです。

のびろひかりのは、駅からはなれて、いるし、遠過ぎて、来るだけでも大嫌いです。

僕は、男で、中西君が好きです。ひかりのは、御風呂の中に、トイレと一緒に、嫌いです。

ひかりのものはのびろも駅からはなれているから、いそがしすぎて、ゆっくりとした時間が取れ無いです。こないだひかりのから、家へ帰る時のびろで、だれかとコーヒー飲みたかったのに、時間が取れ無かったです。

もし、駅前だと電車に、乗るの



嬉泉日録

6月21日 第十回ほほえみ賞贈呈式 本賞 鬼木裕子氏 (しいのみ学園) 奨励賞 田村善明氏 (はるな郷) ら五編

7月12日 治療教育研究会主催、第十七回治療教育夏期セミナー

7月23日 8月6日 育心会主催夏期合宿 (研修)

8月7日 9日 第三回自閉症治療教育セミナー 品川不二郎、梅津耕作、岡堂哲雄、阿部秀雄、佐々木正美、山崎晃資、石井哲夫各氏の講義・シンポジウム 参加者三百五十名 (写真) (予定)

10月26日 第二十二回嬉泉バザー

に、らくです。

ひかりのとのびろは、駅から、はなれすぎているから、車の運転は、決めるとか、歩くのは、時間が取れ無いこれも嫌いです。

のびろもひかりのも長浦駅でも、車だと決めたのがかえられない決まり切っている、これも嫌いです。

駅前だといそがしくなることはないです。

行きたい所って、も考えさせて、もらって、からです。

パン販売の売り場は、千葉のそごう、三越、桜ヶ丘の京王百貨店、自由ヶ丘の駅前、大森の京成百貨店と増やした方がいいです。

内房線は、京王線からはなれて嫌いです。

のびろもひかりのも子研も新路も1か所のビルに、まとめたよう

にして、ほしいです。

大田区の西馬込の地下鉄車庫が高尾の旅館かこのもっともっと便利な所に、パンの販売のお金と千葉の袖ヶ浦のひかりのとのびろの土地のお金で、買ってほしいです。

この袖ヶ浦の車での送り迎えをしないで済む子研のような所や新路のような所へ転居協力おねがいいたします。

後、八王寺そごうデパート、大丸デパートの中でも、いいです。甲府の山交デパートの中でも決行です。

山岸流水子句抄

夏の川辛さも甘さも、持つてる鳥取にて

秋近き事を田舎で肌で知る飛行機にて

夏の想い出の背景に、雲似合う

学校の「先生」でもあったから、二重の十字架を背負っていたことになる。その点に気づいたのは「遊戯療法」を勉強するようになってからであり、子どもを「受容」するために自己変革を迫られたときである。私の意識から二重の傲慢さを取り払うのに何年もかかったし、今でもそれが完全にできてはいないという反省がある。

子どもは弱者であり、いわゆる障害のある子どもはさらに弱者の立場に置かれている。とくに自閉性のある子どもは、周囲にある刺

激に対して独得な反応を示すが、その刺激には強い感受性があるからであって、その点をひと言しゃべってくれば理解してあげられるのにと、「受容」のできない私は自分に対して口惜しい思いをすることがたびたびある。自分の「受容」の能力を高めるために多くの努力を続けてはきたが、この年齢になってもまだまだ「見えざる敵」がいる。

(大妻女子大学・児童学科)



嬉泉の新聞第二部

ひかりのタイムス

この頁は袖ヶ浦ひかりの学園で生活する人々が書いてくれた文章を一字一句訂正せずに掲載しました。おこずかいを一生懸命ためて一人で旅行するのを楽しみにしている市川さんの旅行記など……御一読下さい。

鹿児島旅行記

市川浩志

ひかりの学園を夕方7時出発して、長浦十九時三十分発電車にのって、東京へ夜の九時つききました。東京駅でレストランに入っておいしい物を食べて東京駅を十一時二十五分出て、静岡のへんは夜中から朝にかけて時間で、愛知県へんは朝で明るくなっていました。大垣へ朝の7時ついて、大垣から通きんの時間になって、大垣から明石にかけて、明石でコーヒをのんでねむけをとって、明石から相生へ、相生で食事をして相生から岡山、駅弁を食べそれから広島、ついでそばを食べて広島へんで夕方になりそれから小郡まで行き、小郡へんではもう暗くなり、それから南福岡、ここまで来たこ

ろには夜おそくなり終電車で久留米まで来ました。一夜、ケーキ屋で休みました。ドーナツを一つ食べココアをのんで、朝5時56分発電車にのって熊本川尻へ来て、そのへんでは朝になり、そこから出水へ、そこでは弁当を食べジュースのんで、そこから西鹿児島、八代から鹿児島まで海見えました。そこから山川へ、山川の駅は海が見えています。そこから枕崎へつきました。それで食事をして枕崎駅あるいて田舎の方まで行きました。畑のあるさくのあるところで、夕方の7時から夜の12時まであそびました。2回、林をたんけんしました。あっちこちぶらぶら回っています。

した。テープをきいてラジオをかき、きいて楽しみました。12時になったら、駅へあるいて帰りました。駅で朝4時まで休みました。朝の4時になったらまたあるいて田舎の方へ行きました。テープきいてあそびました。明るくなったら、林の中であそびました。朝はラジオをきいてくつろぎました。朝の7時半になったら、畑の田舎道を通って春日まで行きました。そこからバスにのって、坊津の方まで行きました。平尾でおりに海岸へ行き、海を見て来ました。坊津海岸で海をながめて目をひろったりしてあそびました。海はきれいでした。10時53分になったからバスに乗って枕崎の駅までもどりました。小学校をさんぼして来ました。子供がじゅぎょうをしてました。チャボもいました。このときは楽しかったです。それが見終り、食事をして来ました。枕崎を午後の13時38分発にのって西鹿児島へ来ました。そこから熊本へ来ました。途中、海が見えました。熊本へ来たときは夜の九時でした。そこから終ちやく博多へ来ました。博多では夜の間中レストランに入って、コーヒのんでくつろいでいました。博多5時1分発にのって、下関

そこから岡山、それから姫路、ここらへんまでけしきが見えました。そこから京都まで来て下車して京都の町を見て来ました。ここでは夜でした。そこから米原・それから豊橋、そこでは休みました。朝まで休んだらそこからあたま、それから小田原につきました。ここで国鉄終り、そこから小田急線で向ヶ丘遊園でのりかえ、狛江につきました。

鹿児島旅行は終わりました。バス狛江えい業所までついて家に帰りました。うちに帰ったら風呂に入って、ふくきがえて、すぐねちゃいました。

|| 終り ||

僕の趣味とお仕事

小松育生

ネジの柱時計が好きなの
セイコーが好きなの
西武線が好きなの
営団線が好きなの
小田急線も好きなの
時計と電車が趣味なの
パン販売はぼくのお仕事
ぼくは宣伝係り
東京販売はファーゴに乗っていくの